

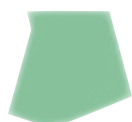
人と地球へのやさしさを発現する『緑装、のまち』 をつくりだす……………グリーン社会を可視化する景観の創出

〈楽歩地区〉から周囲の住宅地における建物や公共公益的な施設を活用しながら、地球環境への貢献とともに、人の情緒に訴えかけるまちの緑装に独創的に取り組むことで、地元の誇りや愛着となり、また新たなまちの利用者を誘引し、自由が丘の新たな象徴となるみどり豊かな環境形成を目指していきます。

方針① 建物の更新に伴う壁面・屋上・外構部の緑化や木質化によって緑装のまちをデザインしていく

自由が丘駅周辺に不足する“みどり”の量を補うに余りあるだけの、言わば“**立体庭園**”と呼べるようなみどりに覆われる環境整備を目指していきます。

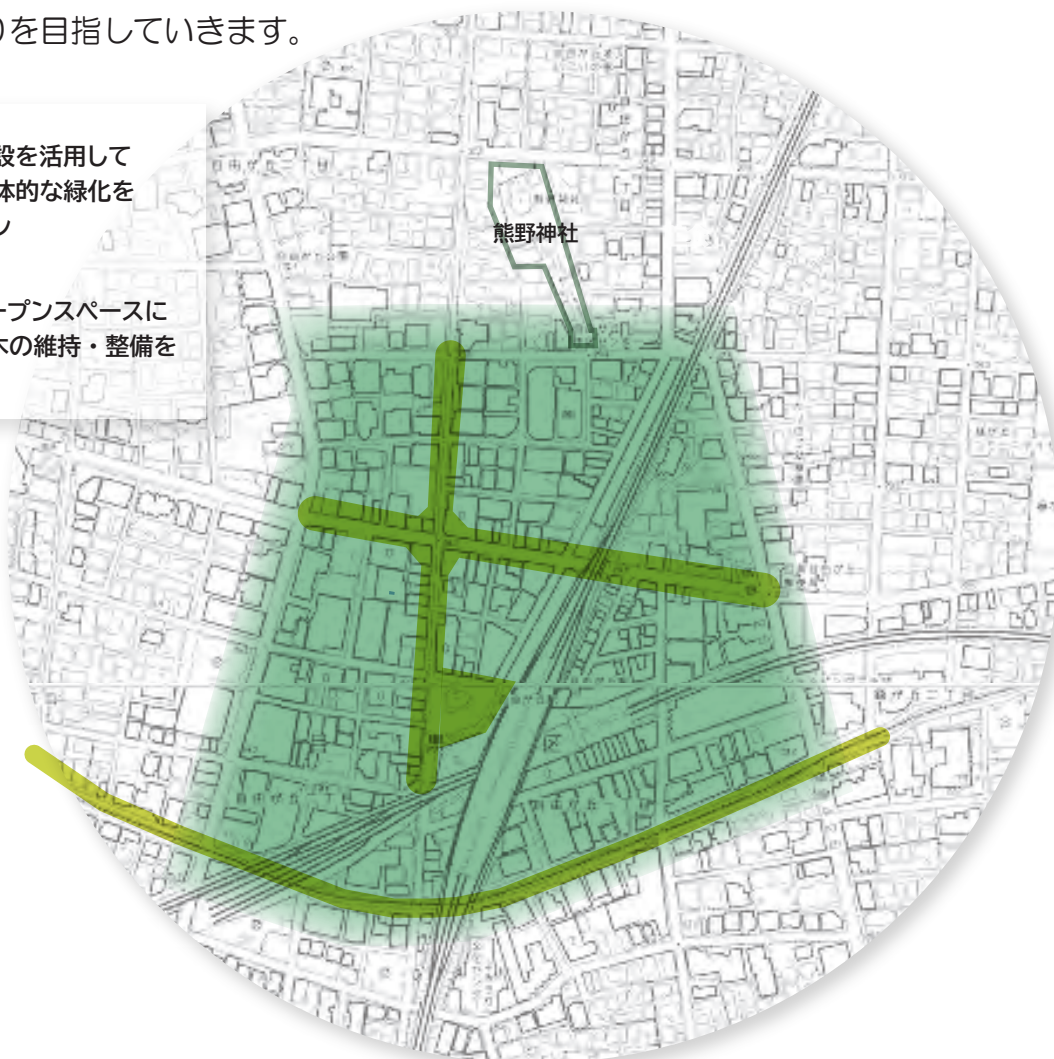
更新していく建物や施設の屋上部（ルーフトップ）や壁面後退によって生じる基壇部上部等を活用しながらみどりをふんだんに導入するとともに、地表等における**歩行者空間における緑化**を進めることで、その風景を見たさに国内外の人達がわざわざ訪れて来るようなみどりの価値づくりを目指していきます。

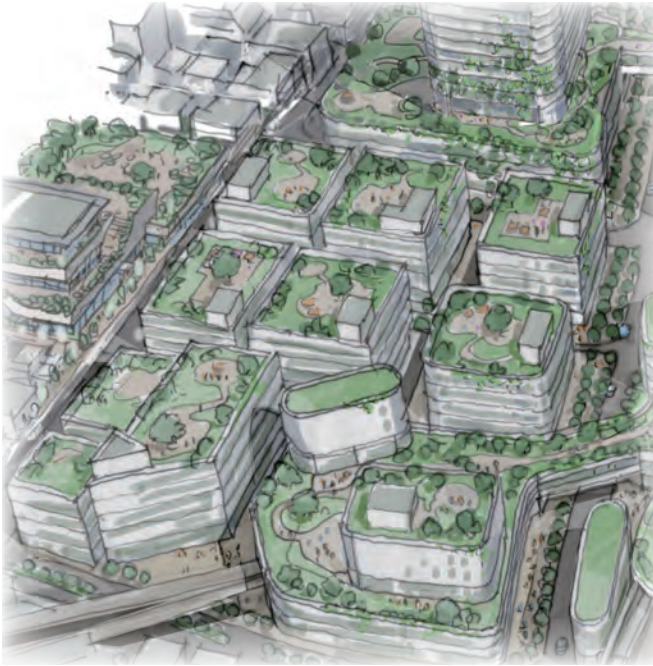


建物や施設を活用して
平面・立体的な緑化を
図るゾーン



線状のオープンスペースに
おいて樹木の維持・整備を
行う区間





〈楽歩地区〉内の歩く視界の中に自然由来の素材を多用することにより、緑化と合わせて自然環境が身近に感じられるまちの表現を目指していきます。

特に、更新を図る建物については緑化と合わせて路面商業店舗の外装（ストアフロント）について木質化の促進を図っていきます。



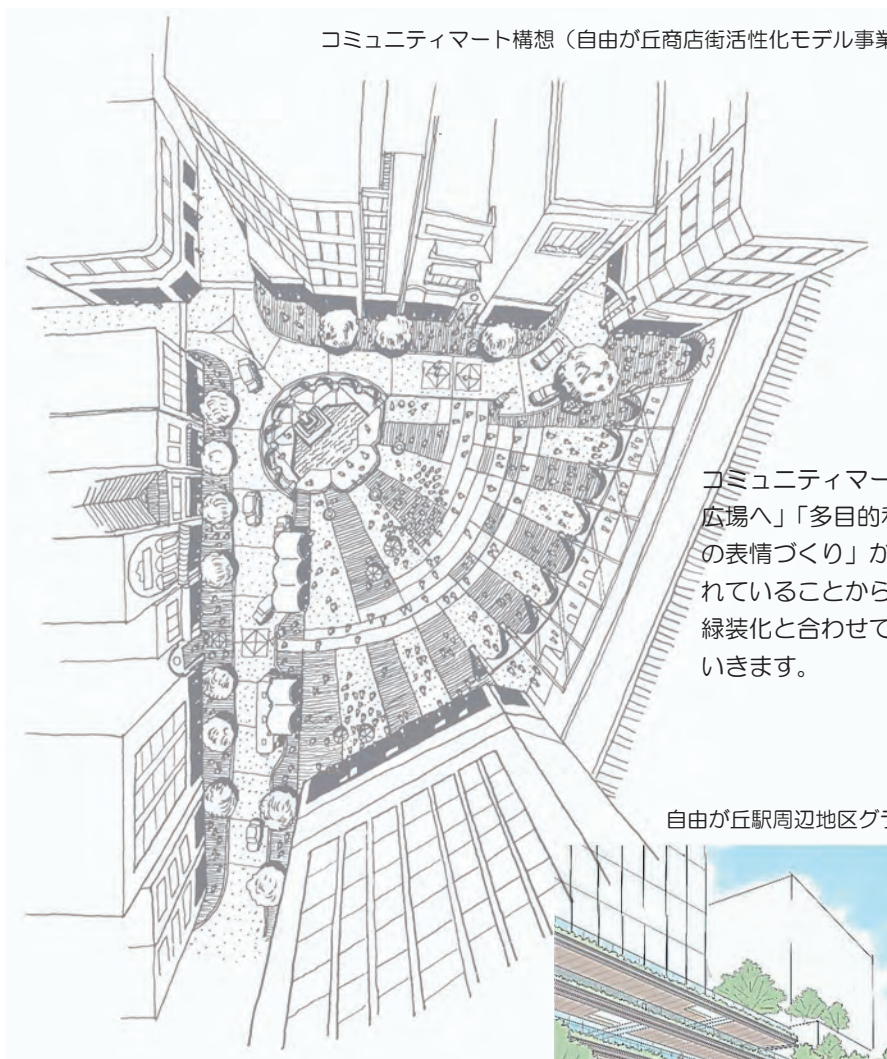
沿道に面する商業店舗の外壁については、出来る限り木質化を促すことにより、グリーン社会の頂点を標榜するまちとしての佇まいを発信していきます。

方針② 駅前広場を歩行者に開放された緑が感じられる空間として再整備する

駅前広場は、必要な交通結節機能を確保しながら、『コミュニティマート構想』や『自由が丘駅周辺地区グランドデザイン』で提案された、**歩行者空間・交流空間形成**を目指していきます。

まち全体の緑装化に伴い、まちの利用者を迎え入れ、送り出す玄関である自由が丘駅前を、“立体庭園”として緑装するまちと呼応して、**みどりが感じられる空間**とすることで**グリーン社会をリードするまちの顔となる駅前空間**を目指していきます。

コミュニティマート構想（自由が丘商店街活性化モデル事業）〔1988 年度策定〕より抜粋



コミュニティマート構想では、「クルマの広場からヒトの広場へ」「多目的利用のできる広場づくり」「街の顔としての表情づくり」が駅前広場整備の基本方針として打ち出されていることから、当時の想いを受け止めつつまち全体の緑装化と合わせて歩行者が主役の駅前広場整備を目指していきます。

自由が丘駅周辺地区グランドデザイン〔2020 年度策定〕より抜粋



方針③ 外構や壁面・バルコニー等を活用しながら色鮮やかな花が溢れ歩行者も丘ばちも喜ぶ景色づくりを促進する

ビルオーナーやテナントの協力を得ながら、四季折々の花が街を彩り、その景色を利用者が楽しみに訪れる環境づくりを目指していきます。

エリアプラットフォーム（後述）の取組を通じて、建物の外構や店舗前の空間やバルコニーを植栽や花で装飾することを促進し、地域が協力して維持管理することで、やさしさや美しさが溢れるシーンづくりを目指していきます。

